

同時進行型



鳥取県日南町立日南小学校
山田 敏之

実践テーマ

組み合わせた角の大きさを計算で求めることができるということを、実操作やアニメーションを使って理解することができる。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉 実物投影機で三角定規と問題文を映し、課題提示を行う。(課題と見通しをつかませる)
- 〈展開〉 三角定規の角を実際に組み合わせる操作を各自に行わせ自力解決させた後、それを取り込んだり、直接実物投影機操作を見せたりしながら説明させる。(思考を広げ深める)
- 〈まとめ〉 最後にアニメーションを提示し、まとめる。(理解を深める)

本時の展開

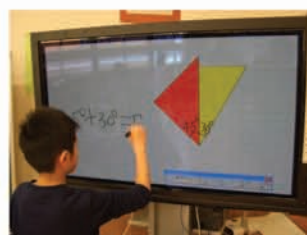
学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	・実物投影機で三角定規の角を合わせた実物を提示し、「この角の大きさの求め方を考えよう」と課題を提示する(実物①)。	●実物(45°+30°の角)
展開	・三角定規の45°と30°の合計であることを自力解決し、分度器で確認する。 ・他の角でもやってみる。 ・児童は自分の考えを、電子黒板上で直接操作したり、書き込んだりしながら説明する(静止画・実物②)。	●静止画 ●実物(三角定規)
まとめ	・アニメーションを見ながら、求め方をまとめる(PC教材)。 ・練習問題をやる。	●自作アニメーション教材 使用ソフトウェア: PowerPoint® (Microsoft Corporation)



三角定規を操作している手元を拡大表示



実物を提示しながらの説明



電子黒板の図に書き込んだ説明

児童の反応・効果

- ・ノートを取り込んだ映像に直接書き込みながら説明したり、机上での具体的な操作を見せながら説明したりすることで、説明がしやすかった。
- ・アニメーションによる具体的なイメージが伝わることで、理解をより深めることができた。

活用のポイント

- ・問題提示や自力解決の場面で、具体的な操作をイメージできない児童に対しての補足説明も、動的に見させることで課題や解決方法を児童が捕らえやすくなる。